

海外ロングステイ

海外ロングステイ同好会
キナバル・ハイランド・クラブ 会長

鈴木 光 雄

◆経 歴◆

昭和62年10月 JICAインドネシア専門家
(農業機械 農水省より出向)

平成17年1月 キアムロン会 理事

平成24年1月 キナバル・ハイランド・クラブ会長

1. はじめに

一時期、「定年退職後の海外ロングステイ」がブームになりましたが、現在はやや下火になっています。しかし、現在でも多くの日本人が海外でのロングステイを楽しんでいます。

ロングステイと一口に言っても、10日間位から数ヶ月までとバラエティーがあり、なかでも滞在ビザが不要な1～3ヶ月間以内が多いようです。また、目的も人によって様々で、寒い日本の冬を避け、暖かい国でのんびり過ごす方や物価の安い東南アジアでプチ贅沢な暮らしを楽しむ等があります。

2. マレーシアのロングステイ状況

筆者は、主にゴルフを楽しむことを目的として、これまでに、ハワイ、オーストラリア(ケアンズ)、台湾、タイ(パタヤ、チェンマイ)、フィリピン(セブ)、マレーシアでロングステイをしてきました。

マレーシアは親日国で、治安も比較的良く、ゴルフも東南アジアで1番安くプレーできるため、ロングステイヤーの間では一番人気があります。

多くのロングステイヤーが滞在している町は、首都クアラルンプールやペナン島です。ほとんどのロングステイヤーは、家具付きのマンション(現地ではマンションとは言わず、アパートやコンドミニアムと呼びます)を借り、月10万円程度で過ごすのが一般的です。

マレー半島の観光地、高原リゾートのキアムロンハイランドは、クアラルンプールやペナン島のような暑さはなく、1年を通して冷涼な気候のため人気があります。ここには、多くのアパートが点在するほか、ゴルフを中心とする日本人の同好会もあります。

3. サバ州ケニンガウの魅力

筆者は、10数年前からキアムロンハイランドにロングステイしてきましたが、近年は、多くのロングステイヤーがこの地に滞在するため、町に1つしかないゴルフ場は大変混雑しています。そのため、ここ10年間は、正月明けから2ヶ月程度、マレーシアのボルネオ島サバ州に滞在しています。

日本では、「ボルネオ島＝秘境」というイメージがありますが、島内ではバスが多く走り、大きな町にはタクシーも多く、交通機関の不便さはあまり感じません。

ボルネオ島には、サバ州とサラワク州の2つの州があります。サラワク州は日本の天然ガスの主な輸入先の一つです。また、ボルネオ島はマレー半島のように回教(イスラム教)色は強くなく、現地の人々に笑顔が多いように感じます。

成田から週2便、サバ州の州都クタキナバル行きのマレーシア航空の直行便があります。クタキナバルの南シナ海岸沿いには、ゴルフ場があるリゾート地がいくつかあります。



写真1 世界自然遺産に登録されている標高4,095mのキナバル山。東南アジアの最高峰でサバ州にあり、登山道が整備されている。

しかし、ここはパックスツアー等で利用しても料金が高く、ロングステイヤーはコタキナバルからバスで約2時間、標高400~700mにある内陸の町、ケニンガウやラナウにあるホテルや民宿で過ごしています。高原のため、海岸沿いに比べると、気温が低くて過ごしやすく、また、観光地ではないため、地元の人々も純朴な人が多い印象です。

筆者が例年過ごしているケニンガウは、標高約400mの盆地で、気候は海岸沿いのコタキナバルより涼しく、朝晩は長袖が必要な時もあります。北緯5度20分で赤道直下に近く、日中の物影は短いです。

また、この地は、世界最大の花といわれるラフレシア(写真2)の自生地として知られるほか、日本の燕の越冬地でもあります。夕暮れ時、数十万羽の燕が付近の山から三々五々と町に戻り、電線に鈴なりになって夜を過ごします。燕は、日本では巣を作って子育てしますが、ここでは巣を作らず電線等で過ごしているのかと思うと一層親しみを感じます。



写真2 世界一大きいと云われているラフレシアの花。咲くのは年に1回、1週間程度で、山奥にあることが多いので、目にする機会は少ない。

4. ロングステイ中の暮らし

我々が利用しているホテルは、一部屋約3,500円で、夫婦2人で利用しても同じ料金です。ホテルからゴルフ場「ケニンガウCC」までは、約6km、タクシーで約300円です。

メンバーコースでのゲストプレー費は、1回約2,500円ですが、15,000円の月会員制度もあります。また、このゴルフ場は、一時期ビジェイ・シンが研修生として過ごしていたことでも知られています。

日中は暑くなるため、朝7時頃にスタートし、11時過ぎには上がるようにしています。平日の午前中は、現地のメンバーがほとんど利用しないため、我々日本人のロングステイヤー数組の貸し切り状態となり、優雅にプレーすることができます。

コースは上級者向きとやや難しいのが特徴です。また、以前はプレーヤー1人にキャディ1人が付き、言葉があまり通じない日本人でも、身振り手振りで意思を伝え、楽しそうにプレーする姿が見られました。2年程前からは乗用カートが導入され、セルフプレーもできるようになりました。

プレーの日はホテルを早く出るため、7時開店のレストランは利用できません。そのため、前日に町でパン等を買ひ、自室で朝食を済ませる方が多いようです。

ホテルは町の中心部にあるため、周囲には多数のオープンカフェ形式のレストランがあり、昼食や夕食はそこを利用しています。

マレーシアは多民族国家であり、華僑も多いため、中華料理店が多く点在しています。やはり、日本人はマレー料理より中華料理を好みますが、日本のご飯のように“ふっくら”ではなく、“ボロボロ”とした食感で、これが難点といえば難点です。また、中華料理は油で炒めたものが多く、シニアの我々はさっぱりした和食が恋しくなります。

毎日、町の中心部で開かれているナイトマーケットには、地場産の野菜やドリアン、マンゴスチン等のトロピカルフルーツが溢れています。

現地語が理解できない人にとって、買物は慣れるまで少し苦勞しますが、品物は新鮮で安いので、同好会の全員は片言の英語と日本語を駆使して買物を楽しんでいます(写真3)。

皆様も少し長めに東南アジアのローカルな旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。



写真3 ケニンガウのナイトマーケット。毎日、午後3時位から開いている。

[参考サイト]

キナバル・ハイランド・クラブ
(<http://www2.accsnet.ne.jp/~noksan/khc/>)
キャメロン会
(<https://cameron-kai.sakura.ne.jp/>)
一般財団法人 ロングステイ財団
(<http://www.longstay.or.jp/>)